

当院は、大阪府池田保健所と共同で、北摂 2 次医療圏の医師会のご協力のもと、難病患者様の地域医療連携を推進することを目的として、大阪北部地域神経筋難病ネットワーク会議を開催しております。去る 2 月 4 日、豊中市千里文化センター「コラボ」において、6 回目あたる今年度研修会を行いました。病院、診療所、訪問看護ステーションなど地域から 53 名のご参加をいただきましたその模様をご報告します。



はじめに、「神経変性疾患における睡眠時無呼吸」と題し、神経内科医師猪山より当院の最近の取り組みをご紹介させていただきました。パーキンソン病、多系統委縮症、筋委縮性側索硬化症では、睡眠障害が潜んでいて、睡眠時無呼吸の治療が予後の改善につながるのではないかと考えている。CPAP はコンプライアンスの問題があり、すべての患者様に適応させることは困難ですが、睡眠につ

いては、分かっていないことが多く、これから症例を重ねまたご報告したいと締めくくりました。

次に事例報告を行いました。池田保健所難病チームの岡崎保健師より①「早期からの介入で在宅調整がスムーズに移行できたケース (ALS)」、当院 MSW 織田より②兵庫県の若年 ALS 患者の在宅調整に関する一事例」、③やわら訪問看護ステーション福田作業療法士から「在宅生活に求められる連携」と題しそれぞれの職種の立場から実践報告をしていただきました。①は、スムーズに退院が進み介護者⇔支援者、支援者⇔支援者の連携ができたことの報告。②は、医療には都道府県の境界はないが、社会保障制度には事務手続きなどに境界があるために調整に難渋することがあり、結局その谷間は本人・家族が埋めていると問題提起されました。③は、退院前カンファレンスは、在宅チーム医療にとって重要との提言をしていただきました。



当然のことかもしれませんが、参加者アンケートでは他機関、他職種との連携の重要性をご意見いただいています。4 月に実施される診療報酬、介護報酬の同時改正においても、医療と介護の連携の強化が指針のひとつになっています。今後この会が、より一層活用されるように取り組んでいきたいと思ひます。